

2018 年度第 2 四半期決算説明 ネットカンファレンス質疑応答要旨

日時	2018 年 11 月 1 日 16:30~17:30
説明者	コーポレートコミュニケーション部 副部長 IR グループリーダー 吉田 修
説明資料	2018 年度第 2 四半期決算の概要 及び 2018 年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティセグメントの 18 年度第 2 四半期営業利益は前年同期比で数量差がプラスとなっている一方、交易条件が悪化しているが、内容について説明してほしい。また北米の自動車販売が足元落ち込んでいるが、影響はあるか。

A1. モビリティは各事業とも販売数量は堅調に推移しているものの、一部製品において原料価格上昇を受けており、価格改定に時間を要しています。北米の自動車販売は 9 月に落ち込んだものの、年初からの累計では前年並みとなっているほか、当社が注力している大型車については 9 月も伸びており、一時的な調整はあるものの大きな流れは変わっていないと見ています。またタイ、インドをはじめとするアジアでは自動車販売台数は伸びており、全体で当社 PP コンパウンドの成長は継続しています。

Q2. モビリティセグメントの営業利益が 1Q（4-6 月）から 2Q（7-9 月）にかけて減少した理由は何か。

A2. 主に原料価格の上昇を受けた価格改定の遅れによるものです。

Q3. モビリティセグメントの営業利益の上期から下期にかけての動きについて説明してほしい。

A3. 機能性ポリマー等、堅調な需要を背景とした販売拡大を中心に増益を見込んでいます。

■ヘルスケアセグメント

Q4. ヘルスケアセグメントの営業利益はこれまで年初計画を下回ることが多かったが、今回上期で年初計画を上回った背景は何か。また上期から下期にかけての動きについて説明してほしい。

A4. ビジョンケア材料が堅調に推移したことに加え、昨年度減損を行った歯科材料の業績も安定的に推移したことによるものです。下期にかけては、ビジョンケア材料は引き続き堅調に推移するものと見ています。一方、不織布については新規ライン立上げに伴い償却費が増加します。また歯科材料は需要期入りに伴う販売拡大を見込んでいます。

Q5. ナフサ価格上昇が続いているが、不織布の収益性はどうか。下期にかけて改善を織り込んでいるか。

A5. 16 年度の始めあたりからナフサ価格が継続的に上昇しており、価格改定の後ずれが続いています。下期にかけては新規ライン立上げによる拡販を計画している一方、償却費負担も発生するため、本格的な利益拡大は来期以降と見込んでいます。

■フード&パッケージングセグメント

Q6. フード&パッケージングセグメントの営業利益の上期から下期にかけての動きについて説明してほしい。

A6. 上期から下期への増益は、主に農産物の販売の季節性によるものです。またコーティング・機能材やフィルム・シートにおいて現在価格改定に取り組んでおり、この影響を織り込んでいます。

■基盤素材セグメント

Q7. 基盤素材セグメントの 18 年度第 2 四半期の営業利益が年初計画と比較して増加した理由は何か。

A7. 環境は大きく変わっていませんが、年初計画ではフェノールや石化製品の市況をやや厳しめに見ていたことによるものです。

Q8. 基盤素材セグメントの営業利益の上期から下期にかけての動きについて説明してほしい。また下期のフェノールの市況前提はどうなっているか。

A8. 上期の定修、及び大阪工場での火災影響の減少が増益要因となる一方、市況軟化及び修繕費の下期へのずれ込み等が減益要因となり、トータルでほぼ上期並みの損益水準を見込んでいます。下期のフェノール市況についても、上期同様、堅調に推移するものと見込んでいます。

Q9. 足元でアジア石化市況が軟調に推移しているが、基盤素材セグメントの営業利益への影響はどうか。またフェノール市況は堅調な一方、アセトンは低調だが、今後の見通しはどうか。

A9. 当社の石化事業は国内が中心であり、堅調な国内需要が継続しています。これを受け設備稼働率は高水準で推移しており、アジア市況の影響を受けるスポット輸出は限定的なため、市況下落の影響はそれほど大きくないものと見込んでいます。またエチレンを購入している海外の事業については、市況下落はプラス要因となります。フェノールについては中国を中心に需要が堅調に推移しているほか、競合のトラブル等もあり、需給はウェル～タイトで推移すると見ています。アセトンは低調が継続していますが、フェノールとの合計では一定の採算は確保できています。

Q10. TDI 市況は 7-9 月 3,400\$/t だったが、下期はどう見込んでいるか。

A10. TDI 市況は足元徐々に下がってきており、この傾向を反映した業績見通しとしています。

■ 全社

Q11. アペル、不織布、歯科材料、農薬の販売について、足元及び下期にかけての動向を説明してほしい。

A11. アペルについては、スマートフォン自体の出荷は低調なものの、スマートフォン用カメラの複眼化を背景に販売が堅調に推移しており、今後もこの傾向が続くと見えています。不織布については、高機能不織布の販売は安定的に推移しているものの、紙おむつの輸出数量の減少により、汎用不織布は販売数量が減少しました。下期にかけては高機能不織布の新規ラインが 2 つ立ち上がるため、拡販に努めて参ります。歯科材料は各種施策の着実な実行による販売の回復に努めています。下期は需要期に入るため、引き続き拡販努力を進めていきます。農薬については海外を中心に販売は安定的に推移しており、下期は国内需要期入りに伴う増販を見込んでいます。

Q12. 大阪工場火災の各セグメントごとの影響について説明してほしい。

A12. 第 2 四半期において約▲25 億円の影響が生じていますが、この内▲23 億円が基盤素材セグメントであり、数量影響で▲7 億円、コスト増加等が▲16 億円となっています。また▲2 億円がその他セグメントであり、コスト増加等によるものです。

Q13. 第 1 四半期（4-6 月）営業利益の前年同期比の増減分析では「固定費他」が▲33 億円となっていた。18 年度第 2 四半期（4-9 月）「固定費他」が▲47 億円となっており、この中には火災影響も含まれることを考慮すると、固定費の増加度合いが縮小しているが理由は何か。

A13. 「固定費他」のコスト増は主に研究開発費等の資源投入強化によるものです。昨年度は期の途中からコストが増加しているため、前年同期との比較では 18 年度第 1 四半期（4-6 月）は差が大きく出ていましたが、18 年度第 2 四半期（4-9 月）では増加率は落ち着いてきています。なお、年初に発表した 18 年度営業利益見通しの前年比増減分析では「固定費他」は▲55 億円としており、現時点においても火災影響を除けば概ねこの程度となる見込みです。

Q14. 18 年度第 2 四半期の持分法投資損益が前年同期比で改善している理由、及び 18 年度下期は上期と比較して減少する見込みとなっている理由は何か。また 18 年度通期見通しで経常利益を上方修正した一方、当期純利益を据え置いた理由は何か。

A14. 持分法投資損益の改善は、韓国のウレタン、中国のフェノール、タイの PTA の各 JV の業績が堅調に推移したことによるものです。なお、下期にかけては一定の市況軟化を織り込んでいます。通期の経常利益の上方修正は持分法投

資損益の改善を受けてのものです。一方で大阪工場の火災による特別損失も発生しているため、当期純利益については従来見通しを据え置いています。なお、火災に関連する損失は保険求償を行って参りますが、時期については来期になる可能性もあるため、今回の業績見通しには織り込んでいません。

Q15. 18年度の設備投資額見通しが年初計画より100億円減少した理由は何か。

A15. タフマーやルーカントの投資は、当初北米立地等も検討していましたが、タフマーについてはシンガポールの増強、ルーカントについては国内立地とし、投資額を抑制したことが主な理由です。

Q16. 自己株買いの理由及び金額の考え方について説明してほしい。

A16. 今回の自己株買いは当社の還元方針に沿って実施しています。当社は総還元性向 30%以上を目指すとしており、現在予定している配当及び当期純利益見込では総還元性向は 25%となるため、自己株買いも含め、目標水準の達成を目指して参ります。また業績は上期で過去最高益を達成していることや、現行の株価水準等も踏まえ、今回 100 億円の自己株買いを実施することと致しました。

以上